

2024年フクシマ連帯キャラバン参加報告書

全港湾東北地本小名浜支部青年部書記長 齋藤直道

今回のキャラバンは被災地として1からフィールドワークの資料作成、全国の方へのどのような被災地を見学させた方がいいのか模索しながら準備を進めてきました。

準備段階からキャラバンを通して改めていろいろなことを感じました。政府、メディアは復興の2文字にスポットをあて原発事故がなかったように整備を行っていますが、本当の復興とは人が帰省し地域の文化や交流が元通りになって本当の復興だと思います。原発事故が起きれば今後の課題も山積みなのも実態です。海洋放出では、政府は漁業者の声に耳を傾けず岸田首相が福島に1度訪れただけでなにを思って海洋放出を決定したのか、汚染土壌の処理では最終処分場をまだ決定していないのに2035年までには福島から無くすといっていますが、どこの都道府県が汚染土壌を受け入れてくれるのかなど、原発事故があったとう事実を早く消したいとしか思えません。

東海第二原発再稼働の問題も、安全神話と言われた原発が事故にあったにも関わらず政府は財政のために再稼働に方針を進め、被ばくを経験した広島、長崎、茨城、福島県民の思いを踏み躪ろうとしか思いません。

準備段階からキャラバンを行い脱原発に向けてすぐ私たちが行動できることは、若年層が政治に興味を持ち、明るい未来のために若年層の選挙の投票率を上げるために呼びかけをしていくことが1番の近道ではないのかなと感じました。